

平成31年度
(2019年度)

大学院芸術文化学研究科(修士課程)

学 生 募 集 要 項

一 般 入 試 【前期日程】

平成30年6月

富 山 大 学

目 次

富山大学大学院芸術文化科学研究科（修士課程）入学者選抜の概要	1
芸術文化科学研究科入学者受入方針	1
一般入試【前期日程】	
1 募集人員	2
2 出願資格	2
3 選抜方法	3
4 試験日程等	3
5 出願期間	3
6 出願方法	4
7 出願書類等	4
8 出願資格の事前審査	5
9 試験場	6
10 合格者発表	6
11 入学手続	7
12 注意事項	7
13 障害等のある入学志願者の事前相談	7
14 志願者等の個人情報の取扱い	8
富山大学大学院芸術文化科学研究科（修士課程）案内	9
担当教員一覧	10
研究科の授業科目及び担当教員	11

富山大学大学院芸術文化学研究科（修士課程）入学者選抜の概要

募集人員

専攻	入試区分	募集人員
芸術文化学専攻	一般入試【前期日程】	4人
	一般入試【後期日程】	4人
	外国人留学生特別入試	若干人
	合計	8人※

※ 募集人員8人には外国人留学生特別入試の募集人員を含みます。

入学試験関係日程

	一般入試【前期日程】	一般入試【後期日程】 外国人留学生特別入試 ※
出願資格審査照会期限 (該当者のみ)	平成30(2018)年7月13日(金)	平成30(2018)年12月14日(金)
出願資格審査 (該当者のみ)	平成30(2018)年7月23日(月)	平成30(2018)年12月25日(火)
出願期間	平成30(2018)年7月30日(月) ～8月3日(金)	平成31(2019)年1月7日(月) ～11日(金)
受験票発送(投函)	平成30(2018)年8月7日(火)	平成31(2019)年1月17日(木)
選抜試験日	平成30(2018)年8月26日(日)	平成31(2019)年2月9日(土)
合格者発表	平成30(2018)年9月19日(水)	平成31(2019)年2月19日(火)
入学手続 (手続締切日)	平成30(2018)年12月中旬	平成31(2019)年3月15日(金)

※ 外国人留学生特別入試は一般入試【後期日程】と同じ日程で実施します。

芸術文化学研究科入学者受入方針

芸術の成果を活用して、心豊かな地域文化の創生を志し、

- 芸術に関する基礎的な表現手法あるいは知識が形成されている人
- 芸術文化に関わる独自の感性を深化させたい人
- 心豊かな地域や社会を具体的に提案することに意欲を持って取り組める人
- これからの社会の担い手を目指す人

を求めます。

一 般 入 試【前期日程】

1 募 集 人 員

専 攻	募 集 人 員
芸術文化学専攻	4人

2 出 願 資 格

次のいずれかに該当するものとします。

- (1) 日本の大学を卒業した者及び平成 31(2019)年 3 月卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第 104 条第 4 項の規定により学士の学位を授与された者及び平成 31(2019)年 3 月 31 日までに学士の学位を授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者及び平成 31(2019)年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した者及び平成 31(2019)年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び平成 31(2019)年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が 3 年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置づけられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び平成 31(2019)年 3 月 31 日までに授与される見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が 4 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者及び平成 31(2019)年 3 月 31 日までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和 28 年文部省告示第 5 号による）
- (9) 平成 31(2019)年 3 月 31 日で大学に 3 年以上在学し、又は外国において学校教育における 15 年の課程を修了し、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者
- (10) 大学卒業までに 16 年を要しない国からの外国人留学生又はこれに準ずる者であって次の二つの条件を満たし、かつ本研究科において、日本の大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
 - a. 大学教育修了後、日本国内又は国外の大学もしくは大学共同利用機関法人等これに準ずる研究機関において、研究生、研究員等としておおむね 1 年以上研究に従事した者及び平成 31(2019)年 3 月 31 日までにおおむね 1 年以上研究に従事する見込みの者
 - b. 平成 31(2019)年 3 月 31 日までに 22 歳に達する者
- (11) 本研究科において、個別の出願資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成 31(2019)年 3 月 31 日までに 22 歳に達する者

3 選 抜 方 法

入学者の選抜は、筆記試験、口述試験、英語外部試験の結果（下記「一般入試における英語外部試験の利用について」を参照。）及び学業成績証明書を総合して行います。

専 攻	筆 記 試 験	口 述 試 験
芸術文化学専攻	小 論 文	志願理由書及び研究計画書に基づき 志願者の修学条件，研究意欲，研究能力等を判定します。

一般入試における英語外部試験の利用について

利 用 方 法
一般入試において、英語外部試験のスコア（100点満点に換算したもの）を利用します。利用する英語外部試験について、入学願書の所定欄にチェックを入れてください。
利用するテストの種類
TOEFL iBT, TOEFL ITP, TOEIC L&R, TOEIC IP (L&R)
スコアの換算方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ TOEFL iBT <ul style="list-style-type: none"> 70点以上 = 100点 70点未満の場合 換算点 = $100 \times (\text{TOEFL iBT のスコア}) / 70$ ・ TOEFL ITP <ul style="list-style-type: none"> 525点以上 = 100点 525点未満の場合 換算点 = $100 \times [(\text{TOEFL のスコア}) - 310] / 215$ 310点以下 = 0点 ・ TOEIC L&R, TOEIC IP (L&R) <ul style="list-style-type: none"> 730点以上 = 100点 730点未満の場合 換算点 = $100 \times (\text{TOEIC のスコア}) / 730$

4 試 験 日 程 等

期 日	時 間	科 目 等	配 点
平成30(2018)年 8月26日(日)	9:45	受 付	
	10:30～12:00	小 論 文	200
	13:00～	口 述 試 験	200

5 出 願 期 間

平成30(2018)年7月30日(月)から8月3日(金)まで

受付は午前9時から午後4時までとします。

なお、郵送の場合も8月3日(金)午後4時までに必着とします。ただし、8月2日(木)以前の消印（日本国内の郵便の消印に限る。）のある書留速達郵便に限り、出願期限以降に到着した場合でも受理します。

6 出 願 方 法

志願者は、出願書類を取りそろえ、所定の期日までに下記あてに提出してください。

郵送の場合は、巻末に添付の所定の封筒（出願用封筒）に出願書類を入れ、下記あてに書留速達郵便で送付してください。

なお、検定料は金融機関で振込みにより納付する必要がありますので、注意してください。

「提出先：〒933-8588 高岡市二上町180 富山大学芸術文化学部総務課学務チーム（入試担当）」

7 出 願 書 類 等

出 願 書 類 等	摘 要
① 入 学 願 書	本学所定の用紙による。
② 受 験 票 ・ 写 真 票	本学所定の用紙による。 出願前3か月以内に正面向、上半身、無帽、単身で撮影した縦4cm、横3cmの写真をはり付け、所要事項を記入してください。
③ 学 業 成 績 証 明 書	出身大学長又は学部長の発行したもの。
④ 卒 業（見 込） 証 明 書	出身大学長又は学部長の発行したもの。
⑤ 振 替 払 込 受 付 証 明 書 （検定料30,000円）	本要項に添付の検定料振込書により、金融機関の窓口で検定料（30,000円）を納付後、金融機関発行の「振替払込受付証明書」に日附印が押印されていることを必ず確認し、「振替払込受付証明書はり付け台紙」の所定欄にはって提出してください。 「領収証書」は、大学から発行しませんので、金融機関発行の「振替払込請求書兼受領証」を大切に保管してください。 ※ATM（現金自動預払機）、インターネットからは振り込まないでください。
⑥ 志 願 理 由 書 及 び 研 究 計 画 書	本学所定の用紙による（指導教員決定の資料とします）。
⑦ 履 歴 書	【外国人出願者のみ提出】本学所定の用紙による。
⑧ 学 位 授 与 証 明 書 又 は 学 位 授 与 申 請（予 定） 証 明 書 （出 願 資 格（2）に 該 当 す る 者）	独立行政法人大学改革支援・学位授与機構が発行するもの、もしくは短期大学長又は高等専門学校長が発行する学位授与申請（予定）証明書。
⑨ 受 験 票 等 送 付 用 封 筒	本学所定の封筒に郵便番号及びあて名を明記し、372円分の郵便切手をはり付けてください。
⑩ あ て 名 票（シ ー ル）	本学所定の用紙にあて名を明記したもの。
⑪ 住 民 票 の 写 し	【日本国内に居住している外国人出願者のみ提出】 居住している市・区・町・村長の発行のもの（在留資格が明示されているもの）。なお、住民票の写しを提出できない者は、出願前に申し出てください。
⑫ 英 語 外 部 試 験 の ス コ ア シ ー ト の 写 し	以下の試験のいずれかのスコアシートの写し（A4判）を1部提出してください。なお、スコアシートの原本確認を受付時に行うので、原本を試験当日に必ず持参してください。（原本は確認後に返却します。） 一度提出されたスコアシートを差し替えることはできないので注意してください。

	① TOEFL iBT の受験者用控えスコアレポート (Test Taker Score Report) ② TOEFL ITP のスコアレポート ③ TOEIC L&R の公式認定証 (Official Score Certificate) ④ TOEIC IP (L&R) のスコアレポート (個人成績表) なお、スコアシートは平成 27 (2015) 年 4 月 1 日以降の試験を受験したものに限ります。
⑬ 論文, ポートフォリオ等*	論文 (卒業論文やその草稿, 著作など) 又はポートフォリオ (作品・研究などをまとめたファイル) を 1 部提出してください。提出の際は「提出作品・論文・ポートフォリオ証明書-添付用」を論文又はポートフォリオにはり付け、あわせて「提出作品・論文・ポートフォリオ証明書-申告用」を提出してください。なお、ポートフォリオは A 3 (見開き A 2) 以内とします。

* ポートフォリオ提出者のうち、作品の提出を希望する者は、以下に従って作品を提出してください。提出物は試験当日に返却します。

作品を提出する場合は、試験当日に持参し、作品置場に置いた後、受付を行ってください。作品には「提出作品・論文・ポートフォリオ証明書-添付用」(別紙様式)をはっておいってください。はっていない場合は受け付けることができません。「申告用」(別紙様式)も試験当日の作品受付に提出してください。

提出作品は、口述試験室持込み用作品 1 件を提出することができます。なお、持込み用作品は受験者本人が独力で持込み可能なものとします。

- ・平面：30号以内
- ・立体：およそ 0.2 立方メートル以内
(重量の限度、作品の種類等について不明の場合は事前に相談してください。)
- ・映像：3分以内にまとめ、概要がわかるようにしてください。
(機材については各自再生可能なパソコン等を持参してください。)

(注) 1 出願書類等③④⑥⑬について、外国語で記載されている場合は、日本語訳を添付してください。なお、⑬の論文、ポートフォリオ等については、その概要を日本語により提出してください。

2 検定料についての留意事項

検定料を金融機関へ納付する際に、別途、振込手数料が必要になります。

また、一旦受理した検定料は、次の場合を除き、いかなる理由があっても返還しません。

(1) 検定料の返還請求ができる場合及び返還額

- ① 検定料を払い込んだが富山大学に出願しなかった(出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった)場合 [返還額] 30,000 円
- ② 検定料を二重に払い込んだ場合 [返還額] 30,000 円
- ③ 検定料を多く払い込んだ場合 [返還額] 多く払い込んだ額
ただし、返還時の振込手数料は、受取人負担とします。

(2) 返還請求の方法

別添の「検定料返還請求書」に必要事項を記入し、本学へ郵送してください。

なお、①及び②の場合は、必ず、「振替払込受付証明書」をはり付けてください。

[送付先：〒930-8555 富山市五福3190 富山大学財務部経理課 電話 (076) 445-6053]

8 出願資格の事前審査

一般入試における出願資格(9)、(10)又は(11)により出願しようとする者は、事前に個別の出願資格審査を行うので、平成30(2018)年7月13日(金)までに下記へ照会してください。

「照会先：〒933-8588 高岡市二上町180

富山大学芸術文化学部総務課学務チーム (入試担当) 電話 (0766) 25-9133」

なお、個別の出願資格審査には、次の書類が必要となります。また、平成30(2018)年7月23日(月)に、書類審査により学力の確認を行います。

○出願資格(9)の該当者について

- ①出願資格審査申請書（本学所定の様式）
- ②学業成績証明書
- ③出願者の所属する学科等の教育課程表
- ④在学証明書又は卒業証明書
- ⑤研究計画書（本学所定の様式）
- ⑥志願理由書（本学所定の様式）
- ⑦住民票の写し（日本国内に居住している外国人出願者のみ提出）
- ⑧履歴書（本学所定の様式 ただし外国人出願者のみ提出）
- ⑨82円分の切手を貼付した長形3号の返信用封筒

○出願資格(10)の該当者について

- ①出願資格審査申請書（本学所定の様式）
- ②卒業証明書
- ③学業成績証明書
- ④研究生、研究員等として従事したことを証明する書類
- ⑤研究計画書（本学所定の様式）
- ⑥志願理由書（本学所定の様式）
- ⑦住民票の写し（日本国内に居住している外国人出願者のみ提出）
- ⑧履歴書（本学所定の様式 ただし外国人出願者のみ提出）
- ⑨82円分の切手を貼付した長形3号の返信用封筒

○出願資格(11)の該当者について

- ①出願資格審査申請書（本学所定の様式）
- ②短期大学、高等専門学校、専修学校、各種学校の卒業生やその他の教育施設の修了者は卒業（修了）証明書及び学業成績証明書
- ③研究計画書（本学所定の様式）
- ④志願理由書（本学所定の様式）
- ⑤業績報告書
卒業論文、研究調査報告書等の業績を有する者、あるいは実務経験や海外での活動経験等を有する者は、その概要をまとめて提出してください。
- ⑥住民票の写し（日本国内に居住している外国人出願者のみ提出）
- ⑦履歴書（本学所定の様式 ただし外国人出願者のみ提出）
- ⑧82円分の切手を貼付した長形3号の返信用封筒

（注）個別の出願資格審査書類のうち、出願資格(9)(10)における②③④⑤⑥及び出願資格(11)における②③④⑤について、外国語で記載されている場合は、日本語訳を添付してください。

9 試 験 場

富山大学芸術文化学部（高岡市二上町180）

10 合格者発表

合格者は、平成30(2018)年9月19日(水)午前10時、芸術文化学部正面玄関に掲示するとともに、本人に合格通知書を郵送します。

なお、合格についての電話その他による問い合わせには一切応じません。

11 入学手続

詳細は合格者に郵送により別途通知します。

- (1) 入学手続日 平成30(2018)年12月中旬
- (2) 入学手続場所 富山大学芸術文化学部（〒933-8588 高岡市二上町180）
- (3) 入学手続時に要する経費

ア 入 学 料 282,000円〔予定額〕

なお、上記の入学料は、予定額であり、入学時に入学料を改定した場合は、改定時から新たな入学料を適用します。

（注1）入学手続完了者が入学辞退した場合には、入学料は返還しません。

なお、入学辞退する場合は、必ず書面（様式は任意）で手続をしてください。

（注2）授業料については、入学後（前期分は5月、後期分は11月）に、それぞれ口座振替により徴収します。

なお、納付金額・納付方法については、入学手続時に案内します。

《参考》平成30(2018)年度授業料 前期、後期 各267,900円（年額535,800円）

イ そ の 他 学生教育研究災害傷害保険等の経費が別途必要です。

- (4) 入学手続日に入学手続を完了しない者は、入学辞退者として取り扱います。

12 注 意 事 項

- (1) 出願手続後、願書等記載事項の変更は一切認めません。また、出願書類及び納入した検定料の返還はしません。
- (2) 学生募集要項を郵送で請求する場合は、封筒の表に「大学院芸術文化学研究科学生募集要項請求」と朱書し、返信用封筒（角形2号封筒に受信先の住所、氏名及び郵便番号を明記し、250円分の郵便切手を貼付したもの）を同封してください。
- (3) 受験票は平成30(2018)年8月7日(火)に発送（投函）します。試験実施の1週間前までに受験票が到着しない場合は、芸術文化学部総務課学務チーム（入試担当）に申し出てください。
- (4) 出願書類に虚偽の記載をした場合は、入学決定後であっても入学の許可を取り消すことがあります。

13 障害等のある入学志願者の事前相談

障害等（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱、怪我、発達障害等）があつて、受験上及び修学上特別な配慮を希望する入学志願者は、出願に先立ち、下記(1)の各事項を記載した申請書（様式は任意）に医師の診断書（写しでも可）を添え、下記(3)の連絡先へ事前相談を行ってください。

なお、必要に応じて、本学において入学志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面談を行うことがあります。

※ 事前相談の申請を行った場合でも、本学への出願が義務付けられるわけではありません。

- (1) 申請書への記載事項

- ① 氏名・性別・生年月日・住所・電話番号・メールアドレス
- ② 志望研究テーマ・受験する入試区分
- ③ 障害等の種類・程度
- ④ 受験の際に特別な配慮を希望する事項
- ⑤ 修学の際に特別な配慮を希望する事項
- ⑥ 出身学校でとられていた措置（指導教員等の所見のあるもの）
- ⑦ 日常生活の状況
- ⑧ その他参考となる事項（相談する際に参考となる書類があれば、併せて提出してください。
例：身体障害者手帳の写し、相談する際に必要と考えられる参考資料等）

(2) 相談の期限

平成30(2018)年7月20日(金)まで

なお、相談の期限後に、受験及び修学の際に特別な配慮を必要とすることとなった入学志願者は、速やかに下記(3)の連絡先に問い合わせてください。

(3) 連絡先

〒933-8588 高岡市二上町180

富山大学芸術文化学部総務課学務チーム(入試担当) 電話(0766)25-9133

(注) 日常生活で使用している補聴器、松葉杖、車椅子等を受験時に使用したい場合も、試験場設定等において配慮が必要となる場合がありますので、必ず事前に相談してください。

事前相談は、障害等のある入学志願者に本学の現状をあらかじめ知っていただき、受験及び修学にあたってより良い方法やあり方を実現するためのもので、障害等のある方の受験や修学を制限するものではありません。

(参考) 国立大学法人富山大学障害を理由とする差別の解消の推進に関する職員対応要領

(本学トップページ) → 「大学紹介」 → 「情報公開」をご覧ください。

14 志願者等の個人情報への取扱い

本学が保有する個人情報については、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」及び「国立大学法人富山大学個人情報保護規則」に基づいて取り扱います。

(1) 出願にあたって知り得た氏名、住所その他個人情報については、①入学者選抜(出願処理、選抜実施)、②合格発表、③入学手続、④入学者選抜方法等における調査・研究、⑤これらに付随する業務を行うために利用します。

(2) 出願にあたって知り得た個人情報は、本学入学手続完了者についてのみ、入学後における①教務関係(学籍、修学指導等)、②学生支援指導関係(健康管理、授業料免除・奨学金申請、就職支援等)、③授業料徴収に関する業務、④統計調査及び分析を行うために利用します。

(3) 本学合格者についての受験番号、氏名及び住所に限り、本学の関係団体である生活協同組合及び同窓会(入学者のみ)からの連絡を行うために利用する場合があります。

(注) 上記団体からの連絡を希望しない場合は、芸術文化学部総務課学務チーム(入試担当)にその旨を申し出てください。

(4) 各種業務での利用にあたっては、一部の業務を本学より当該業務の委託を受けた業者(以下「受託業者」という。)において行うことがあります。業務委託にあたり、受託業者に対して、委託した業務を遂行するために必要となる限度で、知り得た個人情報の全部又は一部を提供しますが、守秘義務を遵守するよう指導します。

照会先：〒933-8588 高岡市二上町180

富山大学

芸術文化学部総務課学務チーム(入試担当)

電話(0766)25-9133

富山大学大学院芸術文化学研究科（修士課程）案内

修士（芸術文化学）の学位が取得できます。

本研究科に2年以上在学して、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格した人には、修士（芸術文化学）の学位を授与します。

専修免許状

既に、中学校教諭一種免許状（美術）又は高等学校教諭一種免許状（美術）を持っている人は、本研究科において所定の単位を修得すれば、当該教科の専修免許状（中学校、高等学校）を取得することができます。

教育職員免許状の種類	免許の教科
中学校教諭専修免許状	美術
高等学校教諭専修免許状	美術

入学料・授業料免除や奨学金貸与などの援助

(1) 入学料及び授業料免除

入学料及び授業料の納付が著しく困難な場合は、本人の申請に基づき、選考により、入学料や授業料の全額又は半額の納付が免除される制度があります。

(2) 奨学金の貸与

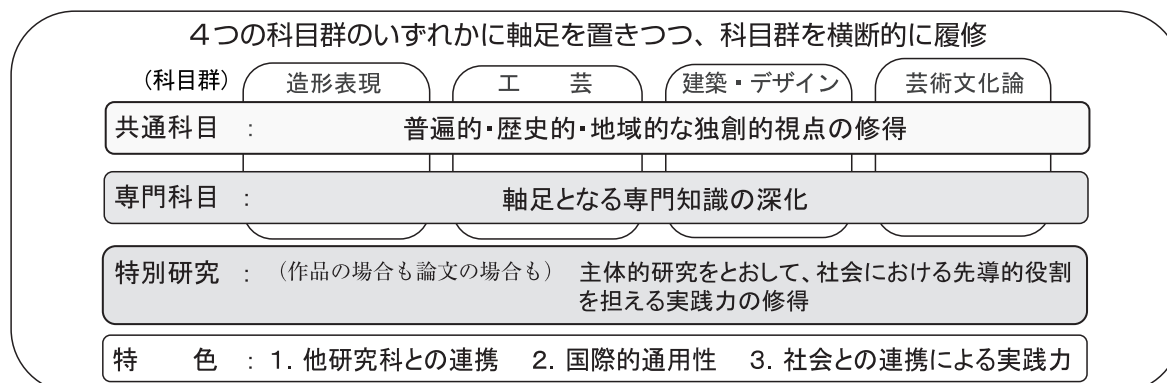
人物・学業ともに、特に優れ、かつ健康であって、奨学金の貸与が必要であると認められる人には、本人の申請に基づき、選考の上、日本学生支援機構から奨学金が貸与される制度があります。

長期履修制度により計画的な履修ができます。

本人からの入学時の申請に基づき、選考により、通常2年間の在学年数を3年又は4年間に延長し、計画的に履修を行うことができます。

この場合の授業料年額については、本来支払うべき授業料年額に標準修業年限（2年）を乗じて得た額を、長期履修期間の年数で除した額となります。

教育課程



教育の工夫	海外協定校との教育研究交流
-------	---------------

まちづくりプロジェクト 地域再生プロジェクト 伝統文化継承プロジェクト	教育の工夫
---	-------

担当教員一覧

(富山大学大学院芸術文化学研究科芸術文化学専攻)

科目群	職名	氏名	担当授業科目 (※オムニバス又は共同担当方式)
造形表現	教授	齊藤 晴之	造形表現特論※, 立体表現特別演習B, 課題研究I・II
	准教授	高島 圭史	平面表現特別演習B, 平面表現特別演習D, 課題研究I・II
	准教授	辻合 秀一	像情報処理特論, 像情報処理特論演習, 課題研究I・II
	准教授	西島 治樹	デジタルアート特論演習, 課題研究I・II
	講師	平田 昌輝	立体表現特別演習A, 課題研究I・II
	講師	松村 浩之	造形表現特論※, 平面表現特別演習A, 平面表現特別演習C, 課題研究I・II
工芸	教授	齊藤 晴之	漆工芸特別演習C, 課題研究I・II
	教授	高橋 誠一	漆工芸特別演習D, 課題研究I・II
	教授	長柄 毅一	材料共生学特論, 材料共生学特論演習, 課題研究I・II
	教授	*林 暁	工芸技術特論※, 漆工芸特別演習A, 漆工芸特別演習B, 課題研究I
	教授	三船 温尚	工芸技術史特論, 工芸技術史特論演習, 課題研究I・II
	教授	山田 眞一	工芸技術特論※, 課題研究I・II
	准教授	清水 克朗	金属工芸特別演習A, 金属工芸特別演習C, 課題研究I・II
	准教授	渡邊 雅志	木材工芸特別演習A, 木材工芸特別演習C, 課題研究I・II
	講師	小川 太郎	漆工芸特別演習E, 課題研究I・II
	講師	内藤 裕孝	木材工芸特別演習B
	講師	ベルトネン 純子	金属工芸特別演習B
建築・デザイン	教授	上原 雄史	建築設計特論※, 建築設計特論演習B, 建築設計特論演習C, 建築設計実務実習I・II・III※, 課題研究I・II
	教授	内田 和美	デザイン特別演習B, 課題研究I・II
	教授	大氏 正嗣	構造設計特論, 構造設計特論演習, 課題研究I・II
	教授	武山 良三	デザイン学特論, デザイン特別演習A※, 課題研究I・II
	教授	*堀江 秀夫	木質材料特論, 木質材料特論演習, 課題研究I
	教授	松政 貞治	都市・建築学特論演習, 課題研究I・II
	准教授	有田 行男	デザインマネジメント特論演習, 課題研究I・II
	准教授	沖 和宏	デザイン特別演習A※, 課題研究I・II
	准教授	河原 雅典	働態学特論, 働態学特論演習, 課題研究I・II
	准教授	萩野 紀一郎	建築再生設計特論, 建築再生設計特論演習, 建築設計実務実習I・II・III※, 課題研究I・II
	准教授	横山 天心	建築設計特論※, 建築設計特論演習A, 建築設計実務実習I・II・III※, 課題研究I・II
	講師	岡本 知久	デザイン特別演習C, 課題研究I・II
講師	藪谷 祐介	建築計画特論, 建築計画特論演習	
芸術文化論	教授	大熊 敏之	日本伝統造形史特論, 日本伝統造形史特論演習, 課題研究I・II
	教授	松政 貞治	芸術文化学特論, 課題研究I・II
	教授 (地域連携推進機構)	金岡 省吾	地域システム特論, 課題研究I・II
	准教授	伊東 多佳子	美学特論演習I, 美学特論演習II, 課題研究I・II
	准教授	奥 敬一	自然風景特論, 自然風景特論演習, 課題研究I・II
	准教授	髙添 貴美子	伝統文化特論, 伝統文化特論演習, 課題研究I・II
	講師	三宮 千佳	日本・東洋美術史特論, 日本・東洋美術史特論演習, 課題研究I・II
	講師	松田 愛	現代美術特論, 現代美術特論演習, 課題研究I・II
	講師	安嶋 是晴	文化資源特論, 文化資源特論演習, 課題研究I・II
	准教授(兼任) (人文学部)	澤田 哲生	人間学特論
准教授(兼任) (人間発達科学部)	池田 丈佑	国際文化関係特論, 国際文化関係特論演習	
教授(兼任) (経済学部)	高山 龍太郎	地域社会学特論	

(注) 担当授業科目欄に「課題研究」の記載がある教員は、指導教員として研究指導を担当することが可能です。

*の教員は平成32年3月退職の予定です。

研究科の授業科目及び担当教員

芸術文化学専攻

授業科目	担当教員	内 容
造形表現特論	教授 齊藤 晴之 講師 松村 浩之	本授業はオムニバス形式で行う。担当教員各専門分野の視点から、造形表現の概念や特質を美学観により解説し、ファインアートの現状を踏まえて創造活動の在り方を考察する。
工芸技術特論	教授 *林 暁 教授 山田 眞一	この授業では主に漆工芸に関する技術を、歴史に残る作品の制作技術や背景を分析してレポートに起こし、各時代の特徴を授業の中で検証する。また、授業の後半では中国明代の「髹飾録」を読み解く作業を行い、漆芸に対する理解を深める。
デザイン学特論	教授 武山 良三	サインデザインを導入として、デザイン、コミュニケーションの骨格を形成する記号化について考える。日常的に行っているデザイン行為を問い直し、自分なりの定義づけを行うことで、記号化する能力を高める。最後にテーマに即した記号を作成し、その展開及び評価を行う。
芸術文化学特論	教授 松政 貞治	建築的環境を含めた、広い意味での造形芸術に共通する文化環境としての課題を概観し、その実践的デザイン・評価・管理において、歴史的文化的基礎に立つ芸術文化学の果たすべき役割を問う。
人間学特論	准教授 澤田 哲生 (人文学部)	西洋近現代における哲学（ドイツ観念論と現象学）と人文科学の知見（精神病理学領域および発達心理学領域における当事者と子どもの表現）を手がかりに、人間による「表現」の意味と限界について概説する。
日本伝統造形史特論	教授 大熊 敏之	明治期以降に伝統として新たに創出された日本画、書、人形、伝統工芸など日本の各造形ジャンルの前史、成立と革新の過程、継承の仕組みの史的分析を行い、そのうえで、伝統的文化の未来に向けての可能性を検討する。
国際文化関係特論	准教授 池田 丈佑 (人間発達科学部)	文化をめぐる（国際）政治を、近代日本の事例を通して学ぶ。政治学と国際関係論から導かれる世界認識の方法を用い、戦前日本におけるデザイン・コミュニティの発展を事例として、文化が政治にどう挑戦したか、逆に文化と政治がどう結びついたかを理解する。
地域社会学特論	教授 高山 龍太郎 (経済学部)	青少年をめぐる諸問題を概観し、その解決のために地域社会で何ができるかを考える。近年、地域社会に、青少年が多様な人と出会い育ち学ぶ場を作る動きが見られる。こうした動きの現状と問題点を探っていく。
地域システム特論	教授 金岡 省吾 (地域連携推進機構)	地域システム特論は、具体的事例にもとづく先行研究より、地域資源、実施主体の点から地域づくりに必要な仕組みを体系的に整理し、地域システム形成の理論化に求められる研究手法や、戦略・戦略構築の手法を学ぶ。
平面表現特別演習 A	講師 松村 浩之	基底材、描画材料は特に限定せず、各自のテーマにあった素材を用いて、その特性を活かした表現を試みる。使用する画材の特性及び技法について深く理解することによって、説得力のある表現を目指す。
平面表現特別演習 B	准教授 高島 圭史	岩絵具、箔、和紙といった日本画画材を用い、各自のイメージを実現しうる制作方法を試行する。また、制作する中で、表現と画材の関連性への考察を深める。
平面表現特別演習 C	講師 松村 浩之	各自のテーマにあった素材を用いて制作する。イメージを説得力ある表現に結びつけるためには、客観性を持つことが重要となる。各自のテーマを理論化する中で、高次の表現を身に付ける。
平面表現特別演習 D	准教授 高島 圭史	日本画における絵画表現の特性への理解を深めながら、各自のテーマに沿って制作方法を探求する。また、制作の中で、絵画表現の可能性を研究する。

*の教員は平成32年3月退職の予定です。

授業科目	担当教員	内 容
立体表現特別演習 A	講 師 平田 昌輝	彫刻もしくはインスタレーションにおける表現展開の探求方法を発展的に身につける。 文献講読を通して、立体表現の歴史的、文化的ありかたを考察し、自らの定位するところに強く意識をおいた立体表現を演習する。
立体表現特別演習 B	教 授 齊藤 晴之	現代の造形表現について資料を収集し、分類整理し、現代社会に及ぼした意義を考察する。立体表現について体系的に理解し、表現意図との繋がりを考察する。現代における時代性を反映した表現方法について独自の特徴ある表現形態について提案する。
立体表現特別演習 C	(未定)	(未定)
像情報処理特論	准教授 辻合 秀一	像情報処理特論では、画像、動画、音などの像情報に対する入出力の説明から始め、像情報の検出、表現、認識、理解、生成、評価などから応用できるようにする。
像情報処理特論演習	准教授 辻合 秀一	像情報処理特論演習では、画像、動画、音などの像情報に対する入出力が実際にどのように扱われているかを調べる。そして、それらを用いた制作を行う。
デジタルアート特論演習	准教授 西島 治樹	デジタル素材を使った演習を通して、自分の思考を具現化する表現能力を磨く。映像、サウンドなど、メディアアートを構成する様々な要素を利用し、メディアインスタレーション作品を完成させる。
漆工芸特別演習 A	教 授 *林 暁	学部の授業ではない乾漆技法を学び、器物をデザインする。原形制作にはアクリルの引き型を使って油土を成形し、石膏原型に置き換えて乾漆器を作るための型造りの工程を通して専門技術・知識の向上を図る。
漆工芸特別演習 B	教 授 *林 暁	器の加飾を考え、蒔絵や平文、螺鈿などの技法で過去の名品の部分模造を行う。各人の選んだ過去の作品の技術やデザインなどを詳細に検討し、伝統的な技術を順守しつつ現代という時代性も考慮しながら研究制作をする。
漆工芸特別演習 C	教 授 齊藤 晴之	現代の美術造形表現に貢献するため、漆素材に関連する技術や知識を最大限に応用しながら、美術造形の分野で有効な表現法、利用法等の開発と、表現技術の幅広い展開について可能性を提示する。それらを基に漆に関連する素材と表現が果たすべき役割を明確にし、具体的な造形作品として視覚化する。
漆工芸特別演習 D	教 授 高橋 誠一	工芸の現状を、市場、文献などの調査、研究から把握する事を目的とし、その調査結果に基づき、現状で有益である漆工芸品のあり方を、漆試作品制作により提案、その制作過程により、漆素材の特性の理解を深める。
漆工芸特別演習 E	講 師 小川 太郎	漆芸素地として最も多く使用されてきた木材を扱い、塗り木地を制作する。過去の漆芸品を例に加工方法を考察し、素材特性を理解し形状に合った技法を選択し木材加工を行う。必要に応じ NC 切削機なども使用する。
木材工芸特別演習 A	准教授 渡邊 雅志	木材分野において、素材・技術・価値・教育・啓蒙活動など人間を取り巻く木材環境を幅広く考察し、課題を各自で設定、解決方法を提案することにより木材工芸への理解を深める。
木材工芸特別演習 B	講 師 内藤 裕孝	家具の設計・制作に必要な知識と技術について演習課題を通して修得する。授業では、住環境あるいは公共空間における家具の役割について、機能やデザインの視点でもって再確認しながら、新たな家具の提案を行う。
木材工芸特別演習 C	准教授 渡邊 雅志	本授業は演習形式である。人間が生活する環境の中に潜む事象を深く観察し、問題解決への提案を「もののデザイン」を通して行う。具体的には、富山県内企業（木工関係）へ、新商品開発をテーマとしたプロダクトデザイン分野によるデザイン提案を行う。市場調査、問題点の抽出、企画・立案、素材・加工方法の検討等を通し、プロトタイプモデルを制作し、対象企業に対してデザイン提案を行う。

授業科目	担当教員	内 容
金属工芸特別演習 A	准教授 清水 克朗	鑄金・鍛金・彫金といった金属工芸技法を複合的に用いた研究課題を、学生が主体的に立案し、工程の計画を立て、自ら設定した金属加工によって、一貫した作品制作に取り組む。
金属工芸特別演習 B	講 師 バルトネン 純子	金属工芸と各履修者の研究題目との共通課題を見出し、金属素材への理解を深めながら、課題解決に向けた制作や方途について演習する。
金属工芸特別演習 C	准教授 清水 克朗	学生が主体的に、鑄造技法を用いた研究目的を立案し、工程フローチャート作成から、合金材料作成、鑄造方法、仕上げ、組み立て、着色、まで一貫して取り組み、完成度の高い制作意図の明確な作品を制作する。
工芸技術史特論	教 授 三船 温尚	朽ちず今に多く残る青銅製品を例に、技術（製作工程）解明のための痕跡調査、科学調査、調査結果のまとめ方、検証実験などについて、幾つかの事例を示す。工芸技術史の概要を踏まえ、異なる時代、地域の工芸技術を繋げて技術史解明に向かう具体例と研究手法を講義する。
工芸技術史特論演習	教 授 三船 温尚	「工芸技術史特論」の講義内容を具体的に演習する。痕跡調査、科学調査、調査結果のまとめ、検証実験などを、計画・実施し、その成果を検討する。実験は鑄造など金属工芸に関連した内容を行う。実際に工程を復元し、実験品と遺物の比較を行い、技術史研究の手法を演習する。
材料共生学特論	教 授 長柄 毅一	金属・無機材料における破壊や腐食についてその基本的なメカニズムを理解することを第一の目標とする。また、様々な試験方法についてその原理と応用を知り、身の回りの製品の安全性、信頼性を評価できる能力を養う。
材料共生学特論演習	教 授 長柄 毅一	私たちの身の回りにある材料（文化財、建築材料等）の破壊や腐食について、科学分析データを理解できるようにするとともに、実際の破壊、腐食事例を知り、どのような対策が最善であるかを提案できるようにする。
デザインマネジメント特論演習	准教授 有田 行男	デザインを総合的に捉え、これからのデザインマネジメントの在り方、新しいデザインのアプローチを考える。演習ではビジネスモデルのデザインを取り上げるとともに、デザインマネジメントを実践するにあたっての個々の表現力やコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の更なる向上を図る。
デザイン特別演習 A	教 授 武山 良三 准教授 沖 和宏	視覚コミュニケーションの手法について学ぶ。基本要素からエレメントを設定し、ビジュアルデザインとしての歴史的活用事例や表現特性について調査・分析し、その特性を活用した作品を制作する。
デザイン特別演習 B	教 授 内田 和美	修士課程修了制作前段階として、インダストリアルデザインの基盤であるデザインリサーチ、企画・立案、及び造形研究や人間工学などの専門的なデザインプロセスを体験し、ユニバーサルデザインへのアプローチを学ぶ。
デザイン特別演習 C	講 師 岡本 知久	すべてのクリエイティブ行為は、送り手から受け手にメッセージを伝えるコミュニケーションである。そこで大切なことは『何を伝えるか?』『どう伝えるか?』。この演習では、より効果的なコミュニケーションを提供するためのデザイン思考とプレゼンテーションを学ぶ。
建築計画特論	講 師 籾谷 祐介	建築計画学とは建築設計の前提条件をデザインするための学問である。本講義では、現代社会における建築計画学的課題について、様々な事例を取り上げて論じ、その先端的課題について整理する。あわせて事例や文献を用いた調査、および分析・討議を行うことで、建築計画学的研究手法を学ぶ。
建築計画特論演習	講 師 籾谷 祐介	地方都市における建築計画学的課題を抽出し、調査・分析・提案・プレゼンテーションを行うことで、実社会における建築計画学の有用性を体験的に理解し、建築計画特論で学習した研究手法の習得を目指す。

授業科目	担当教員	内 容
建築設計特論	教授 上原 雄史 准教授 横山 天心	現代建築意匠の今を分析研究する。記号学などコミュニケーション学と素材・工法・解析・法律革新によるテクノロジー分野、そして変貌する空間体系との相関現象として現代建築デザインを研究する。
建築設計特論演習 A	准教授 横山 天心	高齢化および人口減少に伴い、地方コミュニティの存続が危ぶまれている。ここでは現存する地域コミュニティを多角的にリサーチし、持続可能な地域コミュニティのための建築的な提案を研究する。
建築設計特論演習 B	教授 上原 雄史	持続的で開かれた地方都市特有の空間創造を研究する。建築デザインをプログラム構築における演繹法的及び帰納法的推論過程と仮説し、四季の環境変化を形式・架構・素材に昇華する研究をする。
建築設計特論演習 C	教授 上原 雄史	「建築を軸にトップダウンでコンパクトシティーを計画する」という観点で、富山湾及び平野において土地の高度利用、複合プログラムとランドスケイピングを手法に活力ある地方の空間原理創造を研究する。
構造設計特論	教授 大氏 正嗣	建築構造設計に関係する事象は、力学や材料学などの知識にとどまらず社会学から心理学にも及ぶ。ここでは実際の構造設計を念頭に置き必要とされる知識を習得し体系を理解する。
構造設計特論演習	教授 大氏 正嗣	建築構造設計が作り出すことのできる可能性に着目し、演習を通じて新しい構造デザインの提案に取り組むことで、建築設計が社会におけるどのような位置づけを有し、責任を有するかについて理解を深める。
働態学特論	准教授 河原 雅典	急速に変化し続ける人間の生活環境の中で、人間がその環境にどのように適応しているのかを研究する学問には、例えば、人類学、生理学、心理学、人間工学、労働科学などがあり、働態学もそのひとつである。働態学の特徴は、人間の生物としての本性を理解した上で人間の労働と生活を構築していくところにある。人間工学が生活の効率化を目的とするのに対し、働態学はそれに加えて人間生活の多様性と持続可能性を重んじる。この価値観を理解し、これからの生活をデザインすることを議論する。
働態学特論演習	准教授 河原 雅典	働態学は人間の生物としての特性、とくに適応現象を理解した上で、人間の労働と生活の効率化と生活文化の多様性、持続可能性の維持向上を目指す。この視点から現在の労働と生活のなかにある問題点を発見し、解決案を示すまでを演習する。以下の手順で演習する。 1. 働態学の視点を理解した上で、生活や労働の問題点を抽出。 2. 先行研究を収集、整理し、問題点を明確化。 3. 簡単な実験、調査により、文献調査以外に自分でデータ収集。 4. 得られたデータに基づき問題解決策を提案。
木質材料特論	教授 *堀江 秀夫	構造用集成材の性質と部材設計法について学習する。 木材の基本的物性、木材の接着機構、木質再構成材料の設計理念、通直および湾曲構造用集成材の設計、製造、加工、施工等の方法を学習する。
木質材料特論演習	教授 *堀江 秀夫	「木質材料特論」で学習した内容を発展させ、実際に構造用集成材の設計ができるよう設計計算の演習を行う。これにより、集成材建築物の設計時における部材設計手法を身につける。
建築再生設計特論	准教授 萩野 紀一郎	消費型社会からストック型社会への変換が求められる今日、建築の保存・再生・活用は必要不可欠なテーマである。この授業では、土蔵、古民家、町屋、近代建築など、さまざまな種類の再生事例について、条件、手法、技術など具体的事例について学んでいく。
建築再生設計特論演習	准教授 萩野 紀一郎	建築再生設計特論で学んだことをベースに、演習として具体的な建築再生プロジェクトの計画に取り組む。既存建築の実測、作図から、周辺環境や歴史的背景の調査・分析、プログラムづくりなどから、具体的な計画の設計を行う。

授業科目	担当教員	内 容
都市・建築学特論演習	教 授 松政 貞治	インテリアから都市や景観にいたるまでの人間環境の全スケールを網羅する、単なる機能的構造的な工学システムではない、歴史的文化的概念としての建築とは、本来的にはどのようなものであるはずなのかを主題とする。
建築設計実務実習Ⅰ	教 授 上原 雄史 准教授 萩野 紀一郎 准教授 横山 天心	設計事務所での就業体験プログラムにより、建築設計の実務経験豊富な一級建築士の事務所所員の指導のもとで、現実のプロジェクトに長期にわたり関わることで、授業で修得した実務に関わる知識や技術の実践と、それらの修練を目指す。実施時間は180時間。
建築設計実務実習Ⅱ	教 授 上原 雄史 准教授 萩野 紀一郎 准教授 横山 天心	設計事務所での就業体験プログラムにより、建築設計の実務経験豊富な一級建築士の事務所所員の指導のもとで、現実のプロジェクトに長期にわたり関わることで、授業で修得した実務に関わる知識や技術の実践と、それらの修練を目指す。実施時間は180時間。
建築設計実務実習Ⅲ	教 授 上原 雄史 准教授 萩野 紀一郎 准教授 横山 天心	設計事務所での就業体験プログラムにより、建築設計の実務経験豊富な一級建築士の事務所所員の指導のもとで、現実のプロジェクトに長期にわたり関わることで、授業で修得した実務に関わる知識や技術の実践と、それらの修練を目指す。実施時間は60時間。
美学特論演習Ⅰ	准教授 伊東 多佳子	美学特論演習Ⅰにおいては、美学のトピカルなテーマを選び、英語、ドイツ語、フランス語で書かれたいくつかの論文を読み、討論を行う。参加者にはこのほかに、扱われる主要テーマにつながる他の論文について適宜、報告し、それをもとに討議してもらう。扱われるテーマはその都度設定するが、「自然美」「美的なもの」「物語」「記憶」「想像力」「芸術の定義」などを扱いたい。
美学特論演習Ⅱ	准教授 伊東 多佳子	美学特論演習Ⅱにおいては、美学のトピカルなテーマを選び、英語、ドイツ語、フランス語で書かれたいくつかの論文を読み、討論を行う。参加者にはこのほかに、扱われる主要テーマにつながる他の論文について適宜、報告し、それをもとに討議してもらう。扱われるテーマはその都度設定する。美学特論演習Ⅱは美学特論演習Ⅰと連続して行い、内容はより各論的なものを扱っていききたい。
伝統文化特論	准教授 島添 貴美子	伝統文化に関する研究は、民俗学、文化人類学、歴史学、芸能研究など多岐にわたる。そこで、先行の研究テーマと研究方法を整理・概観することによって、伝統文化とその研究方法への理解を深める。
伝統文化特論演習	准教授 島添 貴美子	伝統文化への研究アプローチの一つとして、フィールドワークと民族誌の記述は重要である。ここでは実際にフィールドワークを行い、民俗誌、民族誌、音楽民族誌等を基にして伝統文化に関する民族誌を作成することを目標とする。
日本伝統造形史特論演習	教 授 大熊 敏之	日本伝統造形史研究の手法を身に付けたうえで、富山を中心とする北陸地域内の実地調査と、その成果に基づく地域の伝統的造形技芸の過去、現在の歴史記述実践を行い、さらには地域文化資源活用の展望について研究する。
国際文化関係特論演習	准教授 池田 丈佑 (人間発達科学部)	国際文化関係特論の続編として、文化をめぐる(国際)政治を考える。戦後日本のデザイン・コミュニティとメタボリズム建築の発展・連携・世界展開に注目し、一見国際関係から遠い位置にある人々がいかに世界を認識し描き出したか、その意義と問題点を浮き彫りにする。
文化資源特論	講 師 安嶋 是晴	文化資源特論では、文化資源と地域社会との相互作用について考察する。特に地域課題の解決に向けた、地元住民による文化資源の認識、評価、活用のプロセスを概観し、地域活性化へのダイナミズムと関わらせながら検討する。
文化資源特論演習	講 師 安嶋 是晴	文化資源特論で学んだことを基礎として、文化資源を活用した具体的な企画手法を学ぶ演習を行う。特定地域のフィールドワークも行い、理論と実践の両面から理解を深め、文化資源を活かした地域活性化の実践的能力の修得を目指す。

授業科目	担当教員	内 容
自然風景特論	准教授 奥 敬一	自然風景をマネジメントしていくためには、自然、人、社会など多面的な視点から対象となる地域を分析・評価し、そうした客観的評価をもとに持続的に地域社会と風景との関係が保てるような総合的な計画へとつなげていくことが求められる。この講義では、そのために必要な評価・分析手法とその背景となる理論について詳説し、講義参加者相互による議論から「総合化」の目指すべき方向について検討する。
自然風景特論演習	准教授 奥 敬一	自然風景マネジメントの実践には、個別分野に精通した専門家だけでなく、風景に関わる専門領域全体を俯瞰し、総合的な視点から計画を構想・調整できる人材が必要である。この演習では、ある特定の地域の自然風景を対象として、多面的な視点からの風景の分析・評価を実践し、実務的な技術として身につけるとともに、ファシリテーター的な人材に求められる総合的な感覚を養うことを狙いとする。
日本・東洋美術史特論	講 師 三宮 千佳	飛鳥・白鳳・天平美術だけではなく、富山を中心とする環日本海地域美術が、東アジアの美術との関わりの中で展開してきた過程について、美術史研究における諸問題を取り上げ、検証しながら新たな研究手法を模索していく。
日本・東洋美術史特論演習	講 師 三宮 千佳	日本・東洋美術史研究における諸テーマ、また越中の仏像仏画に関する先行研究を、学生にプレゼンしてもらい、皆で議論をしながら再検討していく。研究者が何に注目しどのような論理を展開したのか、正確に評価し、自分なりの解決策や展開を提示することをめざす。
現代美術特論	講 師 松田 愛	現代美術と社会の関係について考察する。とくに、美術表現そのものが多様化し始める1960年代から現代までの美術動向に着目し、歴史の変遷や社会状況、背景となる理論を押さえる。 個々の作品や実践が社会や政治、日常へどのようにアプローチし、どのような気づきを与えるのかについて考える。それにより、今日における芸術表現の可能性について検討する。
現代美術特論演習	講 師 松田 愛	美術作品の研究を行うにあたり、文献調査は基本となる。現代美術に関する欧文・和文の文献資料の講読を行い、現代美術と社会の関係を考察する上で、必要な読解力と批判的分析能力を身につける。さらに、具体的な美術動向や芸術祭、展覧会や美術作品の調査・分析を通じて、現代美術の理論的かつ史的研究に必要な調査・研究方法を習得する。
課題研究Ⅰ	教 授 齊藤 晴之	漆、立体造形、工芸美術の分野で独自の研究計画を策定し、研究計画、テーマに沿った具体的な制作物を提示する。エスキース制作の段階を経て、各種素材、技法を利用して、より明確に研究成果を実在化していく。個々の制作における素材の利用方法、表現の方向性を明確にし、独自の表現様式を導き出す。
課題研究Ⅱ	教 授 齊藤 晴之	これまでに履修した特別研究 課題研究Ⅰでの成果としての経験や知識を踏まえて2年間の集大成として、研究テーマを構築し、研究並びに制作を行う。平面、立体造形表現としての新しい可能性を更に発展的に捉え、類似の無い創造的作品制作・研究となるように具体化することを目指す。
課題研究Ⅰ	准教授 高島 圭史	各自が制作テーマを深め、取材から小下図制作、大下図制作から本画制作へと段階的に作業を進め、計画的かつ構築的に制作・研究を行う。中間段階において、検討会や教員による助言や講評を適宜行いながら、制作研究の充実を図る。
課題研究Ⅱ	准教授 高島 圭史	絵画について、および日本画について、制作研究をする中で考察を深めていく。制作研究では、画材の選択と使用方法、制作プロセスの実験を通して、自分自身の表現を構築することを目標とする。

授業科目	担当教員	内 容
課題研究Ⅰ	准教授 辻合 秀一	像情報処理についての修士論文のために必要な知識や技術を身につけ、テーマを次第に絞りつつ、関連文献の講読を進めながら、問題設定を明確にする。研究計画を策定し、修士論文作成に向けて研究指導を行う。
課題研究Ⅱ	准教授 辻合 秀一	像情報処理についての修士論文を完成させるために研究計画を策定し、必要な知識や技術を身につけ、テーマを次第に絞りつつ、関連文献の講読を進めながら問題設定を明確にする。修士論文作成に向けて研究指導を行う。
課題研究Ⅰ	准教授 西島 治樹	映像、音楽、電信、電気、機械、感覚、感情など、複数の情報媒体を組み合わせた表現作品の研究および制作を行う。作品の新規性、社会への発進力、問題提起を含むメディア表現の限界点を模索し、発表する。
課題研究Ⅱ	准教授 西島 治樹	課題研究Ⅰで実践した研究成果をもとに、メディア芸術の本質を再検証して、研究成果を発表する。作品を社会に還元する意味を解き、個から全体へ導きだされる思考プロセスそのものを作品にすることを試みる。
課題研究Ⅰ	講 師 平田 昌輝	彫刻表現の特質を念頭に置きながら、テーマを基に、制作のための調査・取材、あるいは実験を行って、自身の制作において必然性のある素材、技法（手法）を深める。それらを基に制作を行い、発表する。
課題研究Ⅱ	講 師 平田 昌輝	課題研究Ⅰで実践した研究成果をもとに、彫刻の本質を問い直し、研究成果を発表する。現実空間に作品を成立させる意味を考え、要素を吟味した制作を試みる。
課題研究Ⅰ	講 師 松村 浩之	自らの制作の原点と今後の展開を探りながら制作を進めるとともに、各自の制作テーマに沿った作家研究及び素材や技法についての研究を行う。適宜参考資料の提示や指導を行う。
課題研究Ⅱ	講 師 松村 浩之	課題研究Ⅰで行った研究・制作をもとに、自らの制作意図や技法について客観的に理解する力を身に付ける。興味を持った作家の歴史的意義を捉え、素材や技法の理解を深める中で、自らの制作の意義や意図を明確にした上で、独自の表現を社会に向けて発信する。
課題研究Ⅰ	教 授 高橋 誠一	企画、デザイン、造形、素材、漆工技法の能力レベルアップを目的とする。学生個人の能力、状況を教員とのミーティングを通して把握し、弱点を克服するための作品制作課題を設定し、漆工芸品制作の能力を高める。
課題研究Ⅱ	教 授 高橋 誠一	これまでの技術、知識、経験の集大成として、漆工芸の置かれている現状を、市場、文献などの調査から把握し、現状にとって有益である漆工芸品のあり方を、作品として制作し、発表する事により広く社会に提案する。
課題研究Ⅰ	教 授 長柄 毅一	課題研究Ⅰにおいては、修士論文作成のため、まず先行研究の調査を行い、現状における問題点や未解決の事項についてまとめる能力を養う。同時に、関連する実験技術について習得し、実験データの解析や考察についての基本的な技術を習得する。
課題研究Ⅱ	教 授 長柄 毅一	テーマに関連した実験を主体的に行い、学会等における発表を行なうとともに、修士論文を完成することを通じて、材料と共生していくための様々な問題を発見する力と問題解決能力の向上を図る。
課題研究Ⅰ	教 授 *林 暁	乾漆技法による器の制作にテーマを絞り、作品の計画を考える。それにより導きだされたデザインや技法を用いた作品制作課題を設定し、伝統技術の習得を図り、漆工芸制作の能力を高める。 キーワード：漆工芸・伝統技法

授業科目	担当教員	内 容
課題研究 I	教 授 三船 温尚	①青銅やその周辺材料による作品制作, ②鋳造(金属加工)やその周辺の技術調査, ③青銅やその周辺の表面処理や加工技術実験, のなかから研究計画を立て, 修士研究(作品や論文)を行う。
課題研究 II	教 授 三船 温尚	課題研究 I の修学を踏まえて, ①青銅やその周辺材料による作品制作, ②鋳造(金属加工)やその周辺の技術調査, ③青銅やその周辺の表面処理や加工技術実験, の研究計画を検討し, さらに明確な研究目標を定めて修士研究(作品や論文)を行う。
課題研究 I	教 授 山田 眞一	漆芸技法に関する中国の文献読解を通じて, 文献資料に対する読解力を身につけるとともに, 資料に現れた文化的背景について理解を深める。併せて, 中国の漆芸技術継承に関する先行研究をリサーチする。
課題研究 II	教 授 山田 眞一	課題研究 I を踏まえ, 中国における漆芸技法の継承に関わるテーマで修士論文作成を行う。文献資料等の収集能力, 読解能力の向上を図り, 研究テーマについて分析・考察を行い, 修士論文執筆のための指導を行う。
課題研究 I	准教授 清水 克朗	金属加工技術のなかの鋳造技法(込型鋳造技法, 蠟型鋳造技法, 惣型鋳造技法, 生型鋳造技法, 石膏型鋳造技法, 精密鋳造法, CAD・CAM)による修士作品制作のため, その第一段階として制作意図, 制作計画, 作品制作方法の指導を行い, 美的感性及び企画力, 技術力を涵養し, 修士作品制作に向けて研究指導を行う。
課題研究 II	准教授 清水 克朗	金属加工技術のなかの鋳造技法(込型鋳造技法, 蠟型鋳造技法, 惣型鋳造技法, 生型鋳造技法, 石膏型鋳造技法, 精密鋳造法, CAD・CAM)による作品制作計画を策定し, 修士作品制作に向けて制作指導を行う。
課題研究 I	准教授 渡邊 雅志	各自がデザインテーマを発見するところから始まる。周囲のものや環境からテーマを発見, 新しいデザインを生み出すための実験モデル制作や検証を繰り返す。成果物は積極的に学外評価を得る機会を設定する。
課題研究 II	准教授 渡邊 雅志	各自の専門をさらに進めた, 新しい価値について研究する。課題研究 I と同様に実験モデル制作や検証を繰り返す。成果物は積極的に学外評価を得る機会を設定する。
課題研究 I	講 師 小川 太郎	既存優品の素材, 技法に着目し, 特定の素材や技法をより深く理解すべく, 調査, 実験, 考察を行う。考察によって得られた知見をもとに素材, 技法特性を活かした作品の制作を行う。
課題研究 II	講 師 小川 太郎	現在の環境, 世界を見渡し, 工芸の置かれた位置を考え, これから何ができるか, するべきかについての考察を行う。その上で伝統技法に立脚した, 現代にふさわしい工芸のあり方を探っていく。
課題研究 I	教 授 上原 雄史	地方小都市において成功した建築とその環境に関する研究。スプロール現象・中心の空洞化, 少子化と人口の大都市流入による空き家問題に悩む地方都市において, 成功した建築とその環境を抽出, その仕組みを研究し, これを美しいグラフィックで視覚化する。
課題研究 II	教 授 上原 雄史	高度な経済活動を展開し成功する世界中の地方小都市を事例に取り, そこで成功した建築とその環境戦略を研究する。事例特有の状況を, ランドスケープ・土地の高度利用・ユーザーの立ち位置等を媒介に再発見し, 地方創生に有効な空間原理を一歩進めて視覚化する。
課題研究 I	教 授 内田 和美	人間中心/行動中心のデザインを軸にあらゆるプロダクト価値視点(ヒト・モノ・コト・カネ)から問題解決型, 価値創成型プロダクトについての総合的研究を行う。

授業科目	担当教員	内 容
課題研究Ⅱ	教 授 内田 和美	これからの社会に必要とされる、新プロダクトデザイン製品開発(地域連携を含む)を実践的に展開し、プロダクトから社会全体価値作りまでの一連を含む、修士作品(デザイン製品提案)を作成し副論文にまとめる。
課題研究Ⅰ	教 授 大氏 正嗣	社会における建築や構造物の設計における計画や解析の意味や役割を的確に理解・認識し、構造架構に関する検討・解析・実験などを通じて、より価値のある建築物や構造架構の在り方を探究する。
課題研究Ⅱ	教 授 大氏 正嗣	課題研究Ⅰで得られた知見を基に、建築物の価値を単体ではなく地域との関係性の中に見出し、そこに至るプロセスを論理立てて進めることで、修士論文および制作に相応しい知識と能力を獲得するように指導を行う。
課題研究Ⅰ	教 授 武山 良三	修士論文に向けて、文献等の講読、資料収集、調査を行う。スタディモデルを作成し、具体的なデザイン事例をフィードバックしながら論旨を固めていく。論文の構成、論点、記述法などについて指導する。
課題研究Ⅱ	教 授 武山 良三	実践的なプロジェクトを立案し、デザインプログラムを実施する。導入効果に関係者から調査分析し、他の事例にも対応できるようなデザインプロジェクトモデルを立案し、論文にまとめる。
課題研究Ⅰ	教 授 *堀江 秀夫	木質廃棄物の再資源化を目指して、樹種が不明な木造住宅解体材からの再利用材を異樹種・異等級ラミナとみなし、この再利用材ラミナを原料とした構造用集成材の設計製造技術に関する研究を行う。
課題研究Ⅰ	教 授 松政 貞治	建築、都市、景観、町並は、歴史的文化的環境の造形としての実践的営為であり、個人や共同体のアイデンティティを保証する様々な歴史的文化的「意味の織物」の制作・解釈・構成であることを、事例を通じて捉える。
課題研究Ⅱ	教 授 松政 貞治	都市や景観を含めた建築は歴史的文化的な意味の環境であり、我々に良い影響を与える建築・都市の意匠は優れた意味関係の相互参照的構造化であるということに関わる修士論文を執筆するための、高度な研究指導を行う。
課題研究Ⅰ	准教授 有田 行男	課題研究Ⅰは対象領域におけるデザインマネジメントの在り方を考察するとともに、新しいデザインアプローチの切り口、次ステップに繋がるテーマを見出す。後期においては、それらをもとに、修士論文として扱う全体像と骨子(仮説)を構築する。
課題研究Ⅱ	准教授 有田 行男	課題研究Ⅱでは課題研究Ⅰで構築した骨子(仮説)を検証すべく、プロトタイプとフィードバックを繰り返し行う事で、研究としての練度を上げ、修士論文および関連作品の完成とする。
課題研究Ⅰ	准教授 沖 和宏	共通の大きなテーマを設け、任意のデザイン領域を軸足に、人との関係の洗い出しや、領域との関連づけを固有のアプローチで掘り下げ、成果を蓄積していく。それらを通して自己の専門分野の確立をめざす。
課題研究Ⅱ	准教授 沖 和宏	課題研究Ⅰによって確認された学生固有の手法・概念を継続して自身の研究に投影し、デザイン計画を通して実践する。修士研究として修士制作、あるいは結論の明文化による修士論文として具体化する。
課題研究Ⅰ	准教授 河原 雅典	働態学の視点で研究テーマを設定し、一連の問題解決方法を身につける。テーマには人間の生活、労働に関することなら何でも良いが、とくに人間生活と文化の多様性と持続可能性に関わる問題を扱う。修士論文の完成という大きな課題を解決するために、研究の手順を一段ずつ階段を昇るように進めていく。問題抽出、課題設定、解決方法の検討、調査または実験の実施、データの解析、結果の考察、課題の再設定という手順を踏む。

授業科目	担当教員	内 容
課題研究Ⅱ	准教授 河原 雅典	働態学の視点で研究テーマを設定し、修士論文を完成させる。テーマには人間の生活、労働に関することなら何でも良いが、とくに人間生活と文化の多様性と持続可能性に関わる問題を扱う。修士論文の完成という大きな課題を解決する。課題研究Ⅰの成果に基づき、調査や実験など適切な問題解決手段を選定し、研究を遂行する。学会発表を行い、研究成果と問題点を把握する。最終的に修士論文として成果をまとめる。
課題研究Ⅰ	准教授 萩野 紀一郎	建築や地域の保存・再生、土や木を用いたサステナブル建築について、幅広く、文献研究、具体的事例研究、具体的な設計プロジェクト等を行い、一方で、研究あるいはデザインにおける独自の視点を絞り込んでいく。
課題研究Ⅱ	准教授 萩野 紀一郎	課題研究Ⅰをベースに、建築や地域の保存・再生、土や木を用いたサステナブル建築に関して、焦点を絞った具体的な調査研究を行い、その成果を修士論文、あるいは修士制作としてまとめていく。
課題研究Ⅰ	准教授 横山 天心	建築をとりまく環境を多角的な視点で捉え、建築の社会性を押し広げるような切り口を見出し、修士製作・修士論文の指針とする。
課題研究Ⅱ	准教授 横山 天心	課題研究Ⅰでの見出した指針をもとに、修士製作・修士論文のテーマを設定し、分析や設計を論理的に展開することで、建築デザインの新たな可能性の一端を位置づける。
課題研究Ⅰ	講 師 岡本 知久	ビジュアルコミュニケーションを中心としたクリエイティブワークを主軸として、社会課題を発見し解決するためのコミュニケーションデザインとその本質を多面的に考察していく。
課題研究Ⅱ	講 師 岡本 知久	課題研究Ⅰで得られた成果を基として、社会的価値を創造するコミュニケーションデザインのあり方を検証・探求し、修士作品・論文としてまとめていく。
課題研究Ⅰ	教 授 大熊 敏之	日本画、書、木彫、人形、伝統工芸、細工等の日本の伝統的造形技芸の各分野について、美術史学や文化資源論の見地から修士論文作成に向けての初歩的な調査・研究方法の指導を行い、2年次の課題研究Ⅱにつなげていく。
課題研究Ⅱ	教 授 大熊 敏之	修士論文の完成に向けて、1年次の課題研究Ⅰの成果に基づいて、文献及び事例の調査や史資料及び先行文献の読解と批判的検証を進め、そのうえで、修士論文に関する検討を繰り返して、最終的に修士論文を完成させる。
課題研究Ⅰ	教 授 金岡 省吾 (地域連携推進機構)	地域システム特論を履修し、地域再生への問題意識を共有することを前提とし、地域再生へのシステム形成に関する課題について研究指導するとともに、修士論文のテーマの絞り込みに向けた先行研究、およびテーマに即した調査研究方法に関する研究指導を行う。
課題研究Ⅱ	教 授 金岡 省吾 (地域連携推進機構)	課題研究Ⅰの知見を踏まえ、研究計画の再構築、実査を学生が主体的に展開し、修士論文の執筆により、地域課題の発見とその解決能力の向上しうる研究指導を行う。
課題研究Ⅰ	准教授 伊東 多佳子	課題研究Ⅰは、美学で修士論文を作成する学生を対象に行う。美学特論演習ⅠおよびⅡにおいて身につけた能力（美学の専門的な論文を読みこなし、美学に関する考察を深めつつ自由に論じること）を土台にして、それぞれのテーマに応じた研究計画を練りながら、修士論文作成に向けて研究指導を行う。ここでの成果は修士論文の予備段階としての中間論文の作成である。
課題研究Ⅱ	准教授 伊東 多佳子	課題研究Ⅱは、美学で修士論文を作成する学生を対象に行う。美学特論演習ⅠおよびⅡにおいて身につけた能力（美学の専門的な論文を読みこなし、美学に関する考察を深めつつ自由に論じること）を土台にして、それぞれのテーマに応じた研究計画を練りながら、修士論文作成に向けて研究指導を行う。ここでは、課題研究Ⅰで書き上げた中間論文のテーマの深化と発展を図り、二年間の研究の集大成となる修士論文を完成させることになる。

授業科目	担当教員	内 容
課題研究Ⅰ	准教授 奥 敬一	自然風景のマネージメントに関わる社会的な課題を探索、抽出し、その解明、解決を通して新たな知見や方法論を提示するための研究課題を構成する。関連する研究や事例のレビュー、および事前調査を含む調査試行に重点を置き、その成果にもとづいて課題や目的意識を明確化し、社会的に意義のある研究課題へと構成案を固めていく。
課題研究Ⅱ	准教授 奥 敬一	課題研究Ⅰで作成した研究課題の構成をもとに、自然風景のマネージメントに関わる新知見を提供する修士論文を執筆する。また、修士論文を学術的成果として社会に還元するためのステップアップについて学ぶ。
課題研究Ⅰ	准教授 島添 貴美子	伝統文化に関する課題について研究指導し、修士論文のテーマを発見し、絞り込むために必要な基礎知識と方法を身につける。そのために、テーマの発見、絞り込み、テーマに応じた調査方法について指導を行う。
課題研究Ⅱ	准教授 島添 貴美子	伝統文化に関する課題について修士論文の完成に向けて、テーマを再検討し、計画を練り直した上で、補足調査と調査資料の分析を行う。そして、論文の構成を再検討し、論理が明白で、分かり易い文章の書き方を学ぶ。
課題研究Ⅰ	講 師 三宮 千佳	日本・東洋美術研究における修士論文のテーマを設定することを目標とし、そのために必要な研究指導を行う。作品の造形や史料の解釈の方法、論理の妥当性について、各々の課題をもとに研究手法を探究してゆく。
課題研究Ⅱ	講 師 三宮 千佳	課題研究Ⅰで設定した修士論文のテーマについて、新しい本質的な解釈を提示することができる修士論文を執筆してゆく。合わせて自身の研究の新規性、革新性を正しく評価しつつ、社会に貢献するための方法を探る。
課題研究Ⅰ	講 師 松田 愛	美術と社会の関係に着目しつつ、19世紀後半から現代までを中心とする近現代美術論についての修士論文作成に向けて指導を行う。研究テーマの設定と研究計画の策定、関連資料や先行研究の調査、事例の調査・分析へと進み、修士論文のための中間論文を作成する。
課題研究Ⅱ	講 師 松田 愛	近現代美術論に関する修士論文を完成させる。課題研究Ⅰをふまえ、研究テーマを検証し、先行研究の綿密な調査を経て問題を明確化し、具体的な事例調査を通して文章を論理的に展開していく力を身につける。修士論文を完成させることで、より専門的かつ高度な調査・研究能力を習得する。
課題研究Ⅰ	講 師 安嶋 是晴	文化資源に関する修士論文を作成するため、テーマの確定を目標とする。研究の方法論を学び、先行研究・関連研究などを通じ、広く概論的な知識を習得する。これらの成果に基づき、文化資源に関わる問題意識を顕在化させ、テーマの絞り込みを行う。
課題研究Ⅱ	講 師 安嶋 是晴	課題研究Ⅰで設定したテーマに基づき、修士論文を完成させる。まずはアプローチ方法と手順を確定し、論文の骨格づくりをすすめる。新しい知見を加味した説得力のある結論になるように、先行研究・関連研究の検討は継続しつつ内容構成を固めていく。

学生募集要項等の請求先及び入試に関する問い合わせ先

※「入試に関する問い合わせ」は、原則として志願者本人が行ってください。

志望する研究科名等	担当部署	住 所
富山大学大学院 芸術文化学研究科	芸術文化学部総務課 学務チーム（入試担当） 電話（0766）25－9133	〒933-8588 高岡市二上町180